

## 親友について考える

喜多方市立熊倉小学校 六年 高橋 龍旨

みなさんは、親友と聞いて、どんな関係を思い浮かべますか。僕には、毎日ふざけあったり休みの日には遊んだり、辛い時には一緒に乗り越えたいと思う、親友と呼べる人がいます。でも実は、その親友とは、三年生の時に全く話さなくなるほどけんかをしたことがあります。そんな経験から、親友について改めて考えてみたいと思いました。

三年生の時のことです。きっかけは、「小さな悪口」を言ってきたことでした。いつもならなんでもないその言葉に対して僕は、「お前ともう一生話さない」と言ってしまった。そこから、その問題が大きくなり三年生が終わるまで二度と話すことはありませんでした。その日から、毎日顔を合わせる度に気まずく、仲良くしたいけどできないモヤモヤでさびしい日々を過ごしていました。

その時のことを、今思い返すと、自分には大きな失敗があったことに気づきます。それは、「人の気持ちを考えることができていなかった」ということです。「お前と一生もう話さない」という言葉は、僕にとっては軽いつもりで言った言葉でした。けれど、その友だちにとってその言葉は、心に突き刺さるひどい言葉だったと思います。

四年生になり、仲の良くないことに気づいた先生が、もう一度男子全員で話す機会を作ってくれました。そこで、どうしたらいいかを考えあいました。その時、先生に言われた言葉で今でも大切にしている言葉があります。それは、「相手の苦手な部分を見つけたら、それ以上に相手の好きな部分を見つけて」ということです。この言葉を聞いたとき、僕はハッとしました。毎日一緒に遊んでいた思い出や大好きだった友だちの小さな優しさ。それを感じ出した時、僕は勇気を振りしぼり、謝ることができました。そこから少しずつまた話せるようになり、今では毎日じゃれ合うほどの親友に戻ることができたのです。

親友とは、「気を使わずに、気になったことを何でも言い合える関係」だと僕は考えます。でも、親友と良い関係を続けていくために大切なのは、自分が思ったことだけを伝えるのではなくありません。悪口を言わないことはもちろん、相手のことをしっかりと考えて、相手の考えも聞いて大切にしていける。そんな風にお互いの気持ちを思いやれることこそが、本当の親友なのだと、僕はあの時の失敗から学びました。

今、友だちと一緒に仲良く学び、くだらないことで笑い合える、そんな何気ない毎日が最高に楽しいです。熊倉小学校という小さな小学校で同級生は十一人と少ないです。しかし、だからこそ一人一人とたくさんのお出を作ることができます。僕は胸を張って、「親友はこの十一人だ」ということができるのがとっても嬉しいです。